

棚尾地区まちづくり事業
平成 28 年 5 月 26 日 (木) 19 時～
棚尾公民館 3 階

第 5 3 回 棚尾の歴史を語る会 次第

- 1 前回までのテーマに関する参考意見
毘沙門天・妙福寺、光輪寺など

- 2 テーマ 85 「棚小校門の沿革」
説明 (磯貝国雄)
出席者による補足説明、感想など

- 3 テーマ 86 「まちの石積み」
説明 (磯貝国雄)
出席者による補足説明、感想など

- 4 連絡事項・情報交換など
映像版 棚尾物語 2 「棚尾の祭り」制作

- 5 次回日程
第 54 回棚尾の歴史を語る会 7 月 21 日 (木) 7 時から
テーマ「三栄座」 「笛の名手『老成三州』」 「棚尾の駐在所」

棚尾の歴史を語る会 テーマ一覧表

例会	番号	テーマ	番号	テーマ
第 1 回	1	弥生の井	2	盆踊り
第 2 回	3	火の見やぐら	4	杉村修平
第 3 回	5	地震の記録	6	棚尾神楽
第 4 回	7	棚尾橋	8	源氏橋と棚尾港
第 5 回	9	達吉と棚尾	10	棚尾駅
第 6 回	11	棚尾村の瓦屋	12	加藤平五郎
第 7 回	13	棚尾村の村勢	14	棚尾の郵便
第 8 回	15	祝い事の食事	16	俳句の碑
第 9 回	17	俳句の隆盛		
第 10 回	18	大正天皇大嘗祭	19	役場高礼舎
第 11 回	20	秋葉山常夜灯	21	道路元標
第 12 回	22	折戸の坂	23	東浦の分村
第 13 回	24	北棚尾村の分村	25	南極探検清水光太郎
第 14 回	26	中山の分村	27	若宮社
第 15 回	28	棚尾の地藏尊	29	敬老会
第 16 回	30	大相撲清見潟	31	土人形
第 17 回	32	貝殻合わせ	33	区画整理
第 18 回	34	棚尾のお医者さん	35	民話小谷がつぼ
第 19 回	36	平岩種治郎	37	昔の棚尾小学校校舎
第 20 回	38	棚尾神社と忠魂碑	39	味淋造り
第 21 回	40	源氏と長田氏		
第 22 回	41	杉浦宗京の土風炉		
第 23 回	42	琴平社		
第 24 回	43	杉浦治助	44	光照寺弁天池
第 25 回	45	永坂奎兵衛と漢学	46	仏事の料理
第 26 回	47	大正～昭和初期の棚尾の活況		
第 27 回	48	チャラボコ		
第 28 回	49	棚尾の消防	50	名倉半太郎所蔵俳句短冊集
第 29 回	51	堀川の沿革	52	平和用水
第 30 回	53	青年団	54	鋳物業

例会	番号	テーマ	番号	テーマ
第 31 回	55	達吉のふるさと歌		
第 32 回	56	五代永坂壱兵衛と和歌		
第 33 回	57	矢作川と八村川	58	棚尾の農業用水
第 34 回	59	本村沿革記録		
第 35 回	60	八柱神社の奉納品		
第 36 回	61	水害の記録と排水路		
第 37 回	62	棚尾の農業		
第 38 回	63	安専寺と安藤圓秀		
第 39 回	64	達吉の歌碑		
第 40 回	65	棚尾中学校		
第 41 回	66	棚尾の塩田		
第 42 回	67	八柱神社の建造物		
第 43 回	68	春日社	69	おはま平七郎物語
第 44 回	70	新田の開発	71	長富公園
第 45 回	72	棚小校庭の造営物	73	棚尾の橋
第 46 回	74	昔の地名	75	酒造り
第 47 回	76	棚尾言葉	(1)	碧南市章
第 48 回	77	汐田行者堂	78	森下不動尊
	79	中道地蔵尊	(2)	碧南で最初の信号機
第 49 回	80	志貴荘	(3)	国勢調査記念石柱
第 50 回	81	名鉄臨港線大浜口駅	82	大浜臨港線運送株式会社
第 51 回	83	毘沙門天、妙福寺		
第 52 回	84	光輪寺		
第 53 回	85	棚小校門の沿革	86	まちの石積み
第 54 回	87	三栄座	88	笛の名手「老成三州」
	89	棚尾の駐在所		
(これまでのテーマを概要版にして、年代順にまとめる)				
第 55 回	90	棚尾の歩み (1) 江戸時代までの棚尾		
第 56 回	91	〃 (2) 明治時代前半の棚尾		
第 57 回	92	〃 (3) 明治時代後半の棚尾		
第 58 回	83	〃 (4) 大正時代の棚尾		
第 59 回	94	〃 (5) 昭和時代 戦前の棚尾		
第 60 回	95	〃 (6) 昭和時代 戦後の棚尾		

「棚小校門の沿革」

1 要旨

棚尾小学校は明治 34 年(1901)に妙福寺から現在の春日町へ移転しました。校門の石柱はその時に建てられたものです。それから 115 年の長い年月にわたり、同じ位置で児童を見守り続けています。

又、鉄扉は次のような経緯で造られ、現在は四代目です。

- ◎ 初代の鉄扉は現在地に移転後、造られました。
- ◎ その後、二代目は大正 13 年(1924)に棚尾が村から町になったのを記念して平岩種治郎氏が寄贈しました。この鉄扉は、ヨーロッパの宮殿の様な優雅で立派なものでしたが戦時中の鉄製品供出で無くなってしまいました。
- ◎ そのため、昭和 38 年(1963)に厄年の人が昔の設計図を元に製作し、三代目を寄贈しました。しかし、昭和 63 年(1988)事故防止のため、はずして倉庫に置かれていました。
- ◎ 現在の四代目は、平成 14 年(2002)にこの保管されていたものを、平岩慶一、平岩統一郎氏が補強改修され設置したものです。

※この春、ペンキを塗り替え美しくなっています。

2 石柱建立の記録

明治 33 年

校門 No.23-2043 石門設計書

大柱石	1 尺 5 寸角	長 1 丈 4 尺	2 本
大柱傘石	2 尺 4 寸角	厚さ 1 尺	2 枚
大柱ハバキ	幅 1 尺 5 寸	厚さ 8 寸 長 3 尺	4 枚
大柱ジリン	3 尺角	厚 8 寸	2 枚
小柱石	1 尺 2 寸角	長 1 丈 2 尺	2 本
小柱傘石	1 尺 6 寸角	厚 8 寸	2 枚
小柱ハバキ	幅 1 尺 2 寸	厚 8 寸 長 2 尺 4 寸	4 枚
小柱ジリン	2 尺 5 寸角	厚 8 寸	2 枚

ケハナシ石	幅1尺 厚8寸	長1丈8寸	1本
小口ケハナシ石	幅1尺 厚8寸	長2尺8寸	2本

3 門扉の経緯

(1) 初代

(明治33年5月1日村議会会議録)

第22号議案

石門扉ハ鉄ノ事 平岩ニ一任

(2) 二代目

大正12年に平岩種治郎が寄贈

但しその後

(昭和16年9月11日協議会 会議録)

鉄銅回収 役場の内扉、学校の内扉回収を決定スル

(3) 三代目

(棚尾小学校寄附台帳)

昭和38年11月23日

戌亥会(代表永井治策)大正11年12年生れ四十二厄年

校門扉 時価12万4千円

施工 鍛冶次

しかし、この門扉は昭和63年夏に門扉が倒れる事故があったため、はずして倉庫に保管する。

(4) 四代目

平成14年プール改築に併せ、倉庫にあった三代目を修理して設置する。

ステンレス加工以外はほぼ三代目を使う。名板も替える。

「棚尾の石積み」

1 要旨

コンクリートが無い頃やあっても未熟だった時代は、建築や土木構造物に石が多く使われた。八柱神社の石垣、棚尾小学校や公民館の門柱、堀川の護岸又、多くの一般住宅の基礎などに使われている。

棚尾にみられる石の産地は大きく三箇所に分類される。最も古いのは幡豆石で、幡豆町や西浦から船で運搬されて来た。次は車の時代になり、拳母石と呼ばれ、豊田市の高橋地区矢並などで採石されたものが使用された。一番新しいのは岡崎石で、滝町周辺に石切場がある。産地によって、それぞれ石の色や模様などが違うため、施工の年代などもある程度推定できる。

2 石の産地

(1) 幡豆石

蒲郡市誌

ア 概要

西浦半島から幡豆町にかけての山地は、通称「幡豆石」とよばれる変成した花崗岩からなっている。幡豆石の採掘がいつごろから始まったか、その年代は不詳である。大阪城築城や名古屋城築城の際、すでに石垣用に幡豆石が使用されたと伝えられる他、三河湾、伊勢湾沿岸の干拓地の護岸用とか、築港や河川改修などの土木工事の堰堤護岸用の捨石、中詰め石、張石に広く使用されてきた。

イ 産地

幡豆石の砕石地は、幡豆町では桑畑、中濱、洲崎、寺部、崎山、上畑彦田、地区であり、西浦は半島先端の大山（現在は温泉街のため廃止）、長瀬である。

西浦村の沿革をみるとの江戸時代の採石は領主が許可していた。明治になり、愛知県を通して国に申請することになった。その後、昭和12年には採石業は業者経営から村営事業に替わった。

ウ 採石の方法

「矢割法」といわれ、岩石にのみで二寸間隔ぐらいで穴を数箇所あけ、それにカシの木などで作った矢（くさび）を打ち込んで石を割っていた。明治12年頃から火薬の使用が始まり、大割りには火薬、小割りには矢割りが併用されるようになった。

エ 経済性

幡豆石の石材事業が、他地区に較べて優位に立った最大の要因は、採石場が海岸に近く船に積み込むのが容易なため、作業効率も高く、低廉な価格で販売できることにあった。

オ 特徴

石質は黒雲母花崗岩で黒味の多いことと堅過ぎて割合ともろく、上手に割れないという欠点がある。棚尾では最も古くから使われている。

(2) 拳母石

拳母

豊田市高橋地区矢並或いは松平地区鍋田などで採取された。

棚小・役場・長田眼科の石柱など大きな石が多い。

(3) 岡崎石

箱柳町、滝町、小呂（おろ）町 上等なものが多い。

3 八柱神社東石垣の記録

昭和5年施工

寄附人 名古屋市西区西柳町 小笠原十太郎

産地：西浦村 鈴木六兵衛

運搬：棚尾仲仕組 長崎竹治郎

石工：永坂和市

4 石積み工法

石積み工法の一例

平均横断面图



堤防横断面图
 塘海部柳底所字奥沙河堤岸

溢流堰构造图

